

六郷小だより

菊川市立六郷小学校

【重点目標】

『自ら学び みんなで創ろう』

令和5年4月12日 No.1

令和5年度第1学期始業式

登校してくるときの皆さんの元気な声から、「さあがんばるぞ。」
「担任の先生は、誰かな？」といった、ドキドキわくわくの気持ち
が伝わってきます。

さあ、今日から新しい学年のスタートです。

今年の六郷小学校の目指す目標は、「自ら学び みんなで創ろう」
です。

「自ら学ぶ」ためには毎日ひとつでもいいので「これができる
ようになったな」と言えるようにすることが必要です。そのため
には、いろいろなことにチャレンジしていく勇氣が必要です。人
は誰でも「できそうもないな、やめたいな」という弱い心を持っ
ています。心の綱引きに負けない自分づくりを目指します。自分
に負けないことが本当の「強さ」です。苦しいのは自分だけでは
ありません。一生懸命、頑張っている人の周りには、笑顔や応援
してくれる仲間が集まります。人に「優しい」人がたくさんいる
学級は「みんなで創る」ことのできる学級です。その力は、これ
からずっとみんなの宝物になります。

小さな一歩を踏み出すことができれば、二歩、三歩とつながっ
ていきます。まずは、「はじめの一歩」です。さあ、446人の皆
さんと先生で、素敵な六郷小をつくっていきましょう。

さあ、新しい学年のスタートです。全員で毎日一歩ずつ成長し
ていきましょう。

校長 伊藤貴亮

六郷小だより

菊川市立六郷小学校

【重点目標】

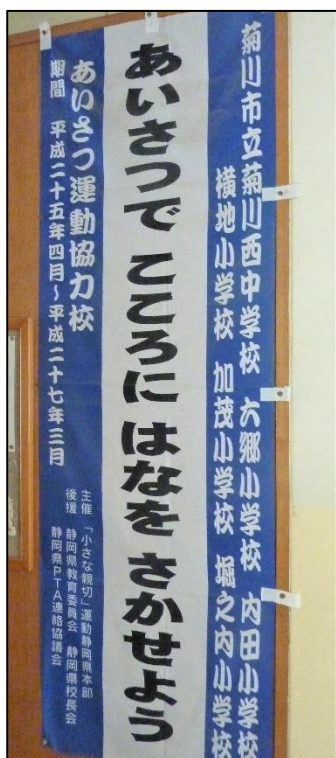
『自ら学び みんなで創ろう』

令和5年5月2日 No.2

朝の校門で

朝、正門で子どもたちとあいさつをしています。六郷小学校の登校グループは上級生が気配りしながら歩いてきます。その姿は優しさいっぱいです。

- ・まだまだ不安いっぱい的一年生と手をつなぎ、声を掛けながら歩いてくる上級生
- ・私があいさつをする前に大きな声であいさつをしてくれる子
- ・リーダーのあいさつに続いて、みんなで大きな声を出すグループ
- ・わざわざ私の前まで来て腰を折ってあいさつをしてくれる子
- ・小さな声ですが、ニコッと笑顔で会釈（軽く頭を下げたりするしぐさ）をしてくれる子



私は、朝の正門で六郷小のみんなのあいさつから、「さあ今日も一日がんばるぞ。」という元気な気持ちをもたらしています。ありがとうございます。

「あいさつで心に花を咲かせよう」

左の写真は平成 25 年度、26 年度に行ったあいさつ運動のスローガンです。（当時の内田小 6 年生が創ってくれたスローガンです。）こののぼり旗は校長室の前に掲示してあります。

毎朝の六郷小学校には素敵な色とりどりの花が咲いています。

校長 伊藤貴亮

六郷小だより

菊川市立六郷小学校

【重点目標】

『自ら学び みんなで創ろう』

令和5年6月1日 No.3

できる できる 絶対できる！

先日の運動会での子どもたちの頑張る姿を見て思い出したことがあります。

私は中学校での勤務経験が長く、部活動の指導では女子のバスケットボール部を担当してきました。中学校の部活動の大会は中体連（ちゅうたいれん）と呼ばれ、小笠地区の大会から始まり県大会、東海大会（静岡・愛知・岐阜・三重の東海四県）、全国大会とつながります。十年ぐらい前に中体連のバスケットボール全国大会が浜松市を会場に開催されました。表題の言葉は三重県代表の女子チームが、ゲーム前などに円陣で繰り返し大きな声にしていたものです。

人は行動を起こす前に、知らず知らずのうちに「自分の限界」を決めてしまうことがあります。「これはできそう…。」「これは無理だな…。」それは、そのまま結果にもつながってしまうものです。人の身体は、精神に支配されます。精神が、心が、「無理だ」と考えたら、身体はたとえ余力があっても力を出し切ることはできないそうです。これと同じことは毎日の生活で、誰もが何回も体験していることだと思います。「あきらめたらそこで試合終了だよ。」とは、ある漫画コミックスにあった登場人物の言葉です。

スポーツをしている場面では非常にわかりやすいのですが、日常生活でも同様だと思います。勉強の場面でも、友達との生活の場面でも…。限界を決めるのは自分。限界を超えた力を出すためには、自分で（勝手に）決めた限界を取り払うことが必要になります。そのためには「強さ」が必要です。本当の「強さ」を持った人は、本当の「優しさ」を持っている人です。本当の「優しさ」を持っている人は、「自分のため」にではなく、「〇〇さんのため」に頑張ることができている人です。その人の喜ぶ顔を見るために。

運動会での六郷小学校の子どもたちの頑張りは来校して応援してくださった保護者や地域の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

校長 伊藤貴亮

六郷小だより

菊川市立六郷小学校

【重点目標】

『自ら学び みんなで創ろう』

令和5年7月3日 No.4

六郷小の校章

右は、六郷小の子供たち、そして多くの卒業生や保護者の皆様、地域の皆様が知っている六郷小学校の校章です。大正5年（1916年）に制定された記録があります。



中央に「六郷」の文字がデザイン化されています。「郷」の字は躍動感があり、生物が空に向かって羽ばたこうとしているような印象を受けます。

外側の枠は植物の葉をデザインしたものでしょうか。調べてみると、菊川市の名産のお茶の葉のようです。茶畑が多い六郷地区を象徴しています。そのお茶の葉には三匹の蛭が描かれ、外に向かって飛び立とうとしています。内側の枠の六つの粒々は雪を表現しています。蛭と雪は「蛭雪の功」の故事に由来します。「蛭雪の功」は苦勞して勉強することやその成果を意味します。昔、中国に2人の貧しい青年がいました。2人は出世を目指し勉強に励んでいましたが、夜の勉強の明かり用の油を買うお金がありませんでした。そこで、一人は蛭を集めた光で、もう一人は雪の明かりで、書物を読み、勉強を続けました。その努力が実り、2人とも高級官吏に出世したという話です。卒業式に歌われていた「蛭の光」の一番にも「蛭の光 窓の雪」という歌詞がありますが、このエピソードを下敷きにしています。地域の方が、六郷小学校で勉強する子供にかけた期待を感じます。

内側の枠は昔の鏡を表し、三角形は三つの剣です。「三種の神器」^{じんぎ}です。「三種の神器」は皇位とともに歴代の天皇に伝わる宝物で、鏡と剣、曲玉^{かがみ つるぎ まがたま}です。鏡の六つの粒々は雪と共に、六郷=六つの郷（本所・半済・小出・神尾・小沢・牛淵）も意味しています。

日本の学校で使用される校章には、学校の歴史や校訓、周囲の環境や気候風土、学校がシンボルとして定めたモノや校名の文字を織り込んで図案化したものが多くあります。また地域の方の思いや期待、願いも込められています。「六郷」の歴史を受け継ぐ子供たちが、この校章をいつまでも大切にしていってくださることを願います。 校長：伊藤貴亮

六郷小だより

菊川市立六郷小学校

【重点目標】

『自ら学び みんなで創ろう』

令和5年7月22日 No.5

72日間の1学期が終わりました

今日で72日間の1学期が終了します。446名でスタートした六郷小のみんなががんばって生活できたことをとてもうれしく思います。

私はテレビや新聞で毎日いろいろなスポーツを見ます。野球、サッカー、バレーボール、バスケットボール、卓球、陸上…私も見ながら感動することが多くあります。つい大きな声で応援していることもあります。「なぜ感動するのかな?」「なんで応援したくなるのかな?」と考えながら見ていて思ったのは、「一生懸命やっている人に対しては応援したくなるんだ。勝つとか負けるのは関係ないんだ。」ということです。あきらめず、最後までやり抜く。力を残さずに出し切る。言い訳をしない。とにかく持っている力を出し切ろうとしているのがわかるから、見ている私は感動して応援したくなっていたんです。

1学期に私はみんなの授業を何度も見ました。応援したくなる人が4月と比べて、とっても多くなってきました。

「自分をもっともっとできるようになりたい。」

「上手になりたい。」

「わかるようになりたい。」…

とみんなが一生懸命にやっていたからです。

六郷小のみんなが2学期に今以上に「もっともっと」向上していくために、夏休みを使えるといいですね。

でも、危険なことはしないでくださいね。みんなが安全に楽しく夏休みを過ごせることを私は期待しています。

9月1日に元気な笑顔で会いましょうね。

(令和5年度第1学期終業式 校長式辞)

校長：伊藤貴亮

六郷小だより

菊川市立六郷小学校

【重点目標】

『自ら学び みんなで創ろう』

令和5年9月1日 No.6

さあ2学期が始まります

41日間の夏休みが終わり、今日から第2学期が始まります。

1学期の終業式で「一生懸命にやっている人に対しては応援したくなる」とお話をしました。六郷小のみんなが自分の弱い気持ちとの「つなひき」に負けずに頑張れたことが1学期の輝きでした。

2学期はこの頑張りを受けながら、もっともっと力を伸ばしていく時です。そのために「みんなで創ろう」（令和5年度六郷小学校の重点目標は「自ら学びみんなで創ろう」です。）を目指していきましょう。

皆さんは自分の弱い気持ちとのつなひきをがんばっていますが、やっぱり「もうだめだ」「できない」と諦めてしまったり、「ちょっとがんばったからこのぐらいでいいや」と思ったりする時があると思います。その時に支えてくれるのが友達です。みんなで「がんばれ、大丈夫だよ」とあきらめそうな人を励ましたり、困っている人を助けたりしてください。もちろん「ぼく、私は、これが分からないけど、助けてください」と助けを求めることも大事なことです。助けを求めることを恥ずかしがらずにできたら自分が得をします。助けを求めることができないと、損をするのは自分です。「みんなで創ろう」を達成するためには勇気が大切です。

2学期にはいろいろな活動があります。担任の先生たちはみんなが楽しく勉強できるように準備や計画をしてくれています。まだまだ続く暑い日に負けずに、六郷小のみんなでがんばっていきましょうね。

（令和5年度第2学期始業式 校長式辞）校長：伊藤貴亮

六郷小だより

菊川市立六郷小学校

【重点目標】

『自ら学び みんなで創ろう』

令和5年10月2日 No.7

♪六郷小学校の校歌♪

あけぼのの 光にはえる 菊川の流れ 流れとともに
わくのぞみ 誓いも 誓いもかたく 学ぶわれらの 歌がある
鳴る潮も 明るく強く いまはげむ心 心はもえて
茶の緑 輝く 輝く風に のびるわれらの 夢がある
遠富士に とびゆく雲に 朝夕の願い 願いは清く
日の国の歴史を 歴史をひらく 進むわれらの あすがある
ああ 共にたたえよう 六郷小学校



六郷小の体育館正面の壁に飾られている校歌のレリーフです。昭和48年度卒業生一同と書かれています。

「校歌」を歌う声が時々聞こえてきます。コロナ禍から少しずつ日常が戻ってきていることを実感します。六郷小学校の校歌は昭和40年に制定され、およそ60年に渡り、本校に在籍した子供や教職員が歌ってきました。

作詞は後藤一夫氏、作曲は木津文彦氏です。後藤氏は戦後の浜松を代表する詩人・童謡作家として活躍した方であろうと推測されます。(残念ながら後藤氏について調べてみましたが、確実な情報が得られていません。現在調査中です。) 木津氏は当時静岡大学で音楽教官として指導に当たり、県内の小中学校等の校歌115曲の作曲を手掛けた方です。

私は菊川東中学校の卒業生ですが、菊川東中は昭和53年4月に学区再編成でできた学校です。そのため開校した当初は校歌が無く、集会では「若い力」(1947年の第2回国民体育大会(石川県)に制作された大会歌 ♪若い力と 感激に…)を歌っていました。校歌は、開校から半年後の昭和53年9月8日の落成式の日にお披露目されました。当時2年生だった私は「自分たちの学校の歌ができたんだ。」と、常葉学園短大音楽部の学生と一緒に歌った場面を思い出します。

何気なく口ずさむ、そんな歌が誰でもあります。校歌はそんな存在です。どこの学校にも「校歌」があります。校歌は、その学校の歴史や地域の様子、そして目指す教育の姿を表現しています。また、子供たちに託す想いも込められています。この校歌をいつも全力で大きな声で歌い、想いを受け継ぐ子供たちを育てていきたいと思います。

校長：伊藤 貴亮

六郷小だより

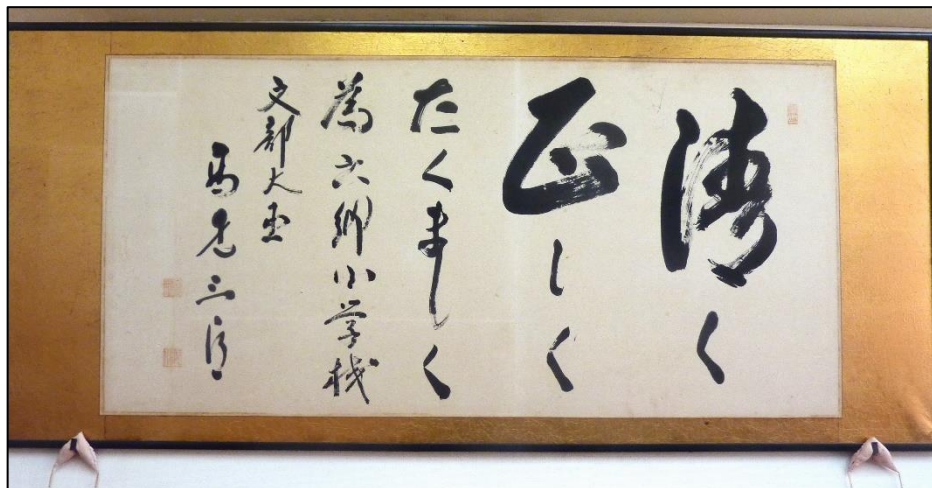
菊川市立六郷小学校

【重点目標】

『自ら学び みんなで創ろう』

令和5年12月5日 No.9

六郷小学校の目指す子ども像



六郷小学校の校長室には左の写真の書が掲示してあります。「清く 正しく たくましく」と書かれています。その後ろには「為（ため）六郷小学校」とあります。おそらく当時の先生方が「六郷小学校の目指す子ども像

（六郷小学校の子どもたちにこんな子どもたちに育て欲しいという願い）」をお願いして書いていただいたものでしょう。書いてくださった方を調べてみると、当時の文部大臣（現在の文部科学大臣・日本全国の教育を司っている国の機関）の高見三郎さん（1971年に就任）です。

「清く」とは心に汚れがなく潔白である様子、「正しく」とは真理に一致していて、筋道が通っていることであり、ゆがんだり乱れていない様子、「たくましく」とは力強く頼もしく活力に満ちあふれている様子を意味しています。六郷小の子どもたちの成長と私たち教員への期待を表している言葉と言えます。

学校には“学校教育目標”があります。これは本校の教育の理念を示すもので、その時々や国や県の目指す方向に伴って変わっていきます。確認できる範囲では昭和53年度「豊かで主体性のある子の育成」、昭和59年度「心豊かでひとり立ちできる子」、平成10年度「心豊かで自らきりひらく子」、平成18年度「なかよく かしこく たくましく」、そして現在の教育目標「高め合い、未来を拓く子」が令和3年度からです。共通しているのは一人ひとりの強さ・たくましさ・自立を目指している点です。そしてただ強いだけではなく心の豊かさや優しさをあわせもつ姿を目指しています。この学校教育目標には、この学校に関わられた多くの人の思いが込められています。そして六郷地区の未来を支える子どもたちへの期待や希望が込められています。この思いを大切に六郷小教職員全員で子どもたちの成長を支えていきます。

校長：伊藤 貴亮

六郷小だより

令和5年度第2学期終業式 校長式辞

今日、77日間の2学期が終わります。

暑い夏から寒くなり始めた冬まで、みんなは本当に大きくなりました。これを「成長」と言います。「成長」は体が大きくなることだけではなく、“今までできなかったことができるようになる”ことです。気持ちにも「成長」という言葉を使います。今までできなかったことを諦めずにやれるようになった。今までよりも早く、きれいに、正確にやれるようになった。その頑張りは全て「成長」です。これは「自分で学び」身に付けたものです。

1年生は、毎日勉強を頑張っていました。特に友達の話聞いて「いいね。」「私は〇〇さんと同じです。」と反応する姿が素晴らしかったです。もうすぐ2年生。立派なお兄さん、お姉さんになれますね。

2年生は野菜を優しい気持ちで育てました。農協の人とおでんをつくったり、お店の人にいろいろなことを教わったりして、実際に大根を売りました。笑顔いっぱい頑張っている姿が素晴らしかったです。

3年生はスーパーや消防署、警察署に見学に行きました。いろいろな施設見学では興味いっぱいでした。質問も自分からできました。いつもやる気いっぱいの姿が輝いていました。

4年生はいろいろな活動を学年のみんなで創りました。パーティーや俳句やイラストコンテスト、スポーツやイベント。会を運営したり、仲良く丁寧に準備をしたりしていつも元気いっぱいでした。

5年生は「忍耐・協力・思いやり」のスローガンで自然教室を頑張りました。全員で山頂ハイクを歩き切りました。全員で、全身全力で頑張りました。来年は最上級生です。最後まで諦めずに頑張る、たくまさが身に付いてきています。

6年生は修学旅行を自分たちで創り上げました。準備ではみんなでお話し合い、相手のことを考えていろいろ決めていきました。「自ら学び みんなで創ろう」の六郷小のリーダーとして頑張りました。来年はいよいよ中学生です。小学校生活のラストスパートを頑張らしましょう。

ひまわり学級みんなは毎日ぐんぐん成長して、できることが増えました。自分のことを一つひとつできるようになる頑張りを見ていて、私はとってもうれしくなりました。

さて、いよいよ明日から皆さんが楽しみにしている冬休みです。元気に過ごしてください。令和6年1月9日、元気な笑顔で会いましょう。

校長：伊藤 貴亮

六郷小だより

菊川市立六郷小学校

【重点目標】

『自ら学び みんなで創ろう』

令和6年1月9日 No.11

さあ新しい年のスタートです

今日から3学期が始まります。3学期は48日です。3学期は、令和5年度の最後の学期です。

私は冬休みにテレビを見る時間がありました。昨年1年間にあったことを振り返る番組がたくさん放送されました。野球のワールドカップやメジャーリーグ、バスケットのワールドカップやバレーのオリンピック予選、駅伝やスケート。スポーツで活躍した人たちやスポーツ以外のことで頑張った人たちがたくさん取り上げられていました。「さすが成果を残す人たちはすごいなあ。」「そうか、この人たちはすごく頑張ったんだな。」と思って見ていましたが、インタビューでは全員が必ず「〇〇さんのおかげです。」と答えていたことに気付きました。

「お陰(かげ)」とははっきりと見えないもののことを表しています。冷たい風が吹いている時に建物の陰(かげ)で風をよけていると温かくなりますね。この時に建物は人が温かくなるために陰(かげ)をつくってくれているわけではありません。でも建物の御陰(おかげ)で温かくなります。

皆さんは3学期も一生懸命に頑張って何かをできるようになったり、完成させたりすると思います。その時に「“〇〇のおかげで”できるようになった。」と思えるようになると、もっともっと“成長”します。その思いを“感謝する”と言います。もっともっと、もっともっと…成長していくために、今まで気付かなかった“〇〇のおかげ”を見つけてください。3学期の目標です。

「僕はできない。」「私には無理。」と言いたくなる時があります。「僕ばかり。」「私だけが。」とイライラするときもありますね。その時にあきらめずに頑張ってください。その頑張りをしている時には、周りのみんなはもちろん先生方も応援しています。そしてみんなでやって、みんなでうれしくなると、うれしさはどんどん大きくなっていきます。みんなで頑張って、みんなですた。それが「自分で学び、みんなで創ろう」の姿です。さあ3学期です。六郷小のみんなですいろいろなことをやり抜いていきましょう。

校長：伊藤 貴亮

六郷小だより

菊川市立六郷小学校

【重点目標】

『自ら学び みんなで創ろう』

令和6年2月2日 No.12

菊川東小学校

菊川東中学校は皆さんもご存じのとおり、六郷小学校の卒業生の多くが進学する学校です。ところで「菊川東小学校」を知っていますか。

六郷ろくごうの名称は半済はんせい・小出おいで・本所ほんじょ・牛淵うしぶち・小沢こざわ・神尾かんのうの六ヶ村が一つになってできた六郷村からです。六郷村の誕生に伴い本校の名前が「六郷尋常じんじょう小学校」と明治22年に改称されたのが名称としての「六郷小」のスタートです。本校の創立は明治43年4月1日です。今年度で創立114年目です。2010年に創立100周年を祝いアエルで式典が開催され、正門脇に立派な記念碑が建立されたことは記憶に新しいですね。

現在の菊川市は旧菊川町と旧小笠町の合併により、平成17年1月17日に誕生しています。菊川市の前身の菊川町は昭和29年1月1日に誕生しています。その昭和29年1月1日から昭和30年3月30日までの約15か月間の



本校の名称が「菊川町立菊川東小学校」でした。菊川町は堀之内・六郷・加茂・横地・内田の合併により誕生しました。加茂小を菊川中央小、堀之内小を菊川北小、内田小を菊川西小、横地小を菊川南小、そして本校を「菊川東小」としました。菊川東小の卒業生は101人、入学生は130人と記録されています。その後、昭和30年3月31日には「菊川町立六郷小学校」に改称されています。

六郷小学校はそれぞれの地区で開設されていた学校が、徐々に統合され今の学区となりました。六郷地区の未来を支える子どもたちに学びの場を提供し続けてきた六郷地区の先人、そして地区の思いを感じます。より良い教育の場を求め統合され名称も変更されてきました。記録で確認できる範囲では7768人の卒業生を六郷小学校は創立以来送り出しています。六郷小の歴史は、六郷地区の未来を支える子どもたちへの期待や希望の積み上げです。教職員全員で歴史の重さを感じ、子どもたちの学びを支えていきます。

校長：伊藤 貴亮

六郷小だより

その想いを受け継いで

六郷小学校のグラウンドに大きな慰霊碑いれいがあります。今から70年程前の昭和30年8月15日に起こった落石事故で亡くなった六郷小学校の2人の先生の慰霊碑です。



↑ 六郷小グラウンドにある慰霊碑

2人の先生とは当時六郷小学校で教えていた松本つや先生と田中晏江先生です。

2人ともその年の4月から六郷小学校で先生になったばかりでした。六年生の林間学校（今の自然教室）を引率して現川根本町かわねほんちょうに行き、発電所やダムを見学する2泊3日の日程を終えた帰り道に落石による事故あに遭いました。

（「六郷小学校開校100周年記念誌“絆”」参照）「100周年記念誌“絆”」に残っている言葉からは2人の先生は子どもを想う気持ちにあふれていた方だと感じ入ります。

六郷小学校の歴史は今まで勤務された多くの先生方が子どもたちのために頑張ってきたことの積み上げです。現在、六郷小に勤務する我々はその先生方の想いを受け継いで目の前の六郷小学校の子どもたちのために心と力を尽

くしていきたいと思います。

校長：伊藤 貴亮



↑ 現川根本町にある慰霊碑

松本先生の日記より
いなかのことは
丸出しの
ま糸道な
子供たち
マア
ふっかっか
ふっかっか
ふっかっか
ふっかっか

↑ 松本先生の子どもたちへの言葉

家庭通信番号より
みんな
みんな
みんな
みんな
みんな
みんな
みんな
みんな
みんな
みんな

↑ 田中先生の子どもたちへの言葉